

業ヲ停止シ後患ヲ防キ嗣後我國民航海ノ安寧
ヲ保護スルニアリ右處分ニ付土蕃ノ暴舉豫防
ノタメ警卒等差送り候ニ付右運輸ノ為メ外國
船相雇ヒ総テ台灣蕃地社寮^{シヤリヤス}ト申港へ差向候事
ニ候右ハ閣下ノ御問合ニ就キ御答迄如此ニ候
敬具

明治七年四月十日 寺 島 外 務 卿

英國公使

ハルリエパークス閣下

上野外務少輔魯公使ト台灣一件應接筆記

七年四月十日

爰ニ私事ニテ下へ御尋申度事アリ

一今般臺灣へ軍ヲ向ケラル、趣風説アリ右
支那政府ニ而承知之事ニ候哉同政府ニテ承
知之事ナレハ宜敷存候不然レハ我國之船舶
等御雇相成度時者職掌ニ於テ相拒ミ可申筋
ナレハ也

一昨年副島氏支那へ出向之節粗談判ニ相成居
且我國人彼地へ漂着之節暴逆之所為ヲ受候故

其罪ヲ問ノミニテ兵端ヲ開ク之趣意ニハアラ
ス且兵卒ヲ附屬セシムルハ今般西郷氏出發相
成候ニ付先年ノ如キ危難無之様其人ヲ保護ス
ル為ニ有之戦争之趣意ナラス
右同様之意味之書簡ヲ英公使ヨリ貴下へ受取
ニナリタルベシ

一然リ

一公然御布告ニ不相成ハ如何

一若シ此度人數渡航之上彼ニ於テ再ヒ暴行ヲ
ナシ彌戦争ニモ及事ニ至ラハ何トカ報知スヘ

キ事アルカモ難計未タ公然ト布告スベキ事ニ
アラス

一我國モ各國モ同様支那ト交際ス彼地ニ於
テ交際上難事起リ候カモ難計存候也

一臺灣ハ生蕃熟蕃其數多ク區分アリ今般参リ
候地ハ各國入居留地ニ關係ナキ地ニシテ且支
那政府之法令モ不被行所ナリ

一此事ハビユーツラフ迄報シ遣シ度存候同
人義知致シ居候ヘハ又便宜ノ事モアルベシ
存候也

蕃地事務司

一今般柳原公使彼地へ参り候へハ同氏ヨリ通
報スベシ

寺島外務卿英公使ト台湾一件應接筆記
年七

四月
十日

外務卿

昨九日附貴翰ヲ以台湾へ出師之儀ニ付則右御

回答トシテ四月十日附第四十四号御返簡ヲ公使渡且台湾繪圖ヲ指示シテ

此社寮港ト申處ハ碇泊スル事難ク故ニ氣候ノ

宜處ヲ待テ今日入ヲ派遣スル事ニ決セリ尤貴

國及ヒ米國船共ニ二艘ヲ雇ヒ人ト糧仗トヲ積

込候筈尤長ク碇泊ハ不及

公使何地々々へ配兵相成候哉

五

寺島外務卿